

——スポーツひのまるキッズにご協賛をいたくことになつたきつかけを聞かせていただけますか。

「忘れもしない東日本大震災が大きなきっかけでした。私は誕生日が3月10日なのですが、翌日の3月11日にあの未曾有の出来事が起つたのです。私の母親は宮城県石巻市出身で、多くの親類も住んでいます。あの日、仕事から帰宅してニュースをつけた私は、見慣れた町が大惨事に見舞われている映像を見て凍りつい

人を笑顔にすることが  
企業活動であり、理念です

株式会社 オンズホールディングス  
代表取締役 **新井健太郎氏**

Profile  
新井 健太郎(あらい・けんたろう)  
1970年3月10日、神奈川県横浜市出身。  
2003年に株式会社オンズ・コンフィアンスを設立。  
不動産事業を中心に事業拡大し、  
2010年にホールディングス化。  
2012年よりスポーツへのまるのキッズを協賛。  
株式会社オンズホールディングス代表取締役。

——意外なことに新井さんは柔道経験をお持ちではないんですよね。

「ええ、私は柔道の経験もないし、それほど詳しいほうではありません。ただ、あの第3回東北大会では、会場の親子の席にオリンピックの金メダリストである齊藤仁さんがいて、私も知っているそんな有名な方が来られるほど大きなイベントなのかなと驚きました。たしか齊藤仁さんの息子さんが出場されていたんですね。現在は大学1年生で日本を代表す

協賛を続けたことでお客様との  
信頼とコミュニケーションが深まった

——人を笑顔にすることが貴社の企業活動であるということですね。

「そうです。まだ起業したばかりの頃、先の見えない不安とプレッシャーのか、とにかく目の前の業務をこなしていくだけの毎日だったのですが、1年が経った頃に、どうにかここまでやつてこられたなど安堵するのと同時に、なぜ続けられたのかと要因を考え、私たちが社会に生かしてもらえたからだと感じたんです。社会があつたからこそ私たちは企業活動を続けられたのだと実感しました。その社会に対し恩返しができないかと考えたことがCSR活動を始めたきっかけでした。創業して2年目のことです。CSRといっても最初はどのような取り組みがあるのか知りませんでしたから、いろいろ調べながら、まずは政府系のものから始わりました」

2012年の第3回スポーツひのまるキッズ東北小学生大会以降、長年にわたってスポーツひのまるキッズにご協賛いただいている

株式会社オンズホールディングス。

たいなぜ同社は積極的にCSR活動に取り組み、  
ひのまるキッズへの協賛を続けているのか。  
その原点を代表取締役・新井健太郎氏に聞いた。

き手・永瀬義規[一般社団法人スポーツひのまるキッズ協会 代表理事]



## 人を笑顔にしたい、社会に恩返ししたい 創業2年目から社会貢献活動を開始

――弊社はマンション・住宅販売・資産運用、不動産管理や仲介、コンサルティングを事業展開していて、住宅の購入から老後の資産運用まで、人生のライフプランナーとしてお客様をサポートさせていただいているります」

――創業時のメンバーと社名がリンクしているとうかがいました。

「フランス語でオンズとは『II』という意味で、コンフィアンスは『信頼』です。弊社は2003年に会社を立ち上げたのですが、そのメンバーが11名だったんですね。11名が信頼しあえる仕事をしようと誓つたことがきっかけで『オンズ・コンフィアンス』としました。その後、社員数が100名を超えて、グループ会社も7社ほどあつた時期もありましたが、現在は時代の変化に対応するためには規模を絞り込んで活動しています」

――貴社は社会貢献活動　いわゆるCSR活動にも積極的に取り組まれており、スポーツ・ひのまるキッズもそのなかの一つですが、何をきっかけに始められたの

「貴社には第3回大会をきっかけに現  
る選手になりつつあるそうで、陰ながら  
応援させていただいています」

「私たちちはマンション住宅に関する事業も行なっていますので、ご家族の方と接する機会が多くあります。いまはインターネットやSNSが盛んになり、親子の関係も希薄になりますがちと言われていますが、そんな時代背景のなか親子の絆をテーマにした大会に協賛していることで、ご家族のお客様からの信頼も高まり、コミュニケーションもより深まつた印象があります」

——貴社はその他にもCSR活動に取り組まれていますが、内容を教えていただけますか。

「NPO法人テラ・ルネッサンスを通じ世界で2番目に貧しい国、ブルンジに元子ども兵の自立支援センターを設立するなど、支援をさせていただいています。最初にお話をうかがつたときに、日本の平和さを実感させられると同時に、私たちで何か力になれないかと考えたことがあります。きっかけです。他には少年サッカーチーム『ヴィヴィアンズ』、女子ラグビー

の『東京山九フェニックス・ラグビークラブ』があります。東京フェニックスについて、選手を弊社の社員として迎えていたこともあり、現在でも協賛させていただいております。

——最後に、貴社の今後の目標を聞かせていただきますか。

「弊社は今期で18年目なのですが、社会情勢は大きな変革期にあると感じています。われわれは100年企業を目指したいと考えておりますので、100年後もこうしたCSR活動を続けていけるようにしたいですし、スポーツひのまるキッズに協賛し続けられるよう活動していくことが今後の目標です」